

くらしのまなび つうしん

くらしの学びサポートオフィス HumanBeing

代表 菅原清香

〒984-0826 宮城県仙台市若林区若林4-1-28 C-201

TEL : 080-1811-6568

MAIL : info@officehb.net

https://www.officehb.net/



福祉・防災・ボランティアなどを切り口に「くらし」の学びに関する情報をお伝えしていきます！

くらしの学びサポートオフィス HumanBeing では「一人ひとりの命と暮らしを守り、困りごとに気付き合い・支え合う地域づくり」を目指して、福祉・防災・ボランティアなどを切り口に「くらし」の学びの場づくりに取り組んでいます。このたび「くらしのまなびつうしん」の発行をスタートしました！HumanBeing、そして全国各地の取り組みを発信していきますので、日々の活動にお役立ていただけますと幸いです。掲載内容に関しまして、ご感想・リクエスト・お問い合わせ等ございましたらぜひ気軽にお寄せください^^

みやぎ発防災レシピカレンダー 今年もご好評いただいています！

2023年版から始まり3年目に入るみやぎ発防災レシピカレンダー、2025年版もご好評いただいています！

2025年掲載レシピは、これまで掲載レシピを開発してきた Food and Smile!(宮城学院女子大学ボランティアサークル)のほか、東六郷・東部かあちゃん'ず、Food and Smile!OGの管理栄養士、防災クッキング教室に参加してくれた滋賀県の小学生親子の皆さんが考案しました。備蓄品を活用したレシピ、ポリ袋クッキングで作るレシピなど、アイデアあふれるレシピが満載です！レシピはコピー配布OKですので、お家でカレンダーとしてご使用いただくだけでなく、防災クッキング教室やサロン活動などでもご活用いただけます。HumanBeingのホームページではご注文を受け付けている他、レシピ考案者へのインタビューやカレンダー未掲載レシピも掲載していますので、ぜひご覧ください。



防災クッキング教室のご依頼も県内外各地よりいただいています。2024年11月27日には、色麻町社会福祉協議会主催「防災クッキング」にて東六郷・東部かあちゃん'ず 秋谷智明さんとともに講師を務めました。秋谷さんから東日本大震災当時の食事の課題や現在の備えについてお話を伺った後、東六郷・東部かあちゃん'ず考案レシピやカレンダー掲載レシピの計4品を参加者の皆さんに調理いただきました。



食事後の振り返りでは、ご自身の震災当時の経験を振り返ったり、秋谷さんに質問をされていたり、参加された皆さんそれぞれに「食の防災」について考えていただけた様子でした。

実践報告会を開催しました

2024年12月6日、沖縄県那覇市にて「東日本大震災の経験を教訓へ～宮城で育んできた防災力 実践報告・プログラム体験・情報交換会」を開催しました（協力：特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく）。県内で福祉学習・防災学習の推進に取り組む社会福祉協議会や福祉施設の職員、防災士の方々など15人にご参加いただきました。最初に実践報告「東日本大震災後の宮城で取り組んできた防災学習・福祉学習」を行い、東日本大震災からの復旧・復興や地域共生社会の推進といった社会の変化とともに歩んできた取り組みをお伝えし、その後、みやぎ発防災ゲームを体験いただきました。



東日本大震災の発生から来年で15年。またこの間全国各地で災害が多発しています。防災学習・福祉学習の推進について皆さんとともに考えていけるよう、今後もこのような機会を設けていきたいと考えています。

みやぎ発防災ゲーム 活用レポート

HumanBeing で製作・販売しているみやぎ発防災ゲーム。2021年の販売開始から3年半がたち、全国各地でご活用いただいています。先日鳥取県を訪れた際に、米子市・倉吉市の社会福祉協議会の皆さんから活用事例についてお話を伺いましたので、紹介させていただきます。*ゲームの詳細・ご注文方法等はホームページをご覧ください。

障がいのある方とも一緒に取り組めるようにアレンジ！

社会福祉法人米子市社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進課 築谷菜月さん・村上光奈子さん

鳥取県社会福祉協議会主催「令和4年度福祉教育推進セミナー」でこのゲームを体験した際に同席していた民生委員から「研修会で障がいのある方とこのゲームがしたい！」と相談いただいたことをきっかけに、障がいのある方も一緒に取り組めるよう、工夫を重ねてきました。

最初に、米子市民生児童委員協議会研修会で聴覚に障がいのある方とゲームを実施。手話通訳や要約筆記のサポートもいただきながら、声かけのかわりに視覚的にわかりやすいサインを決める・口元を見やすくする・カードをしっかりと見せ合う・手をはっきりあげる、などのルールも決めました。

その後、西部圏域聴覚障害者災害対策連絡会主催「きこえない・きこえにくい人における防災学習会」でゲームを実施。学習会が円滑に進むよう、手話サークルで何度も打ち合わせを行いました。鳥取県の「防災サイン(手話とジェスチャーを組み合わせた防災情報の視覚的な伝達手段)」の周知にもつながればと、防災用語を表現する際は防災サインを用いるようにしました。学習会当日は障がい当事者と民生委員の顔合わせの機会でもあったため、ゲームと一緒に楽しく体験することで、防災の知識だけでなく親交も深まったように思います。

地区民生児童委員協議会の研修会で視覚に障がいのある方をお招きし、災害時の困りごとやどのような支援が必要かお話をいただいた後、持ち出し品ゲームと一緒に体験したこともあります。米子市ボランティアセンターの登録ボランティア団体に、カードに貼る点訳シールを作成いただきました。

その他にも、サロン支援メニューに取り入れたり、ボランティア入門講座でゲームを実施し小学校で実施する際にサポートいただいたり、さまざまなイベント・研修等で活用中です！ゲームで楽しく学べることで、どの世代も一緒に学べて、対話が生まれ、人とひとが関わり合うきっかけになるところが良いなと思っています。



高校生が学び・伝える防災

社会福祉法人倉吉市社会福祉協議会 地域福祉課 課長 林原香里さん

「倉吉くらしよし」という言葉があるように、倉吉市は元々災害の少なかった地域です。しかし2016年10月21日に鳥取県中部地震が発生し、市内で最大震度の6弱を観測しました。この地震を教訓に、「災害はいつどこで起こるかわからない、いざという時に命と暮らしを守るため、子どもたちに、防災をちゃんと伝え、話し合う場をつくりたい」…そのような思いを抱えていた所、鳥取県社会福祉協議会主催「令和4年度福祉教育推進セミナー」に参加しみやぎ発防災ゲームを知りました。

倉吉北高等学校インターアクトクラブ・調理クラブ、倉吉東ロータリークラブと連携して、ゲームを活用して開催したのが「親子で学ぶ防災教室」(2023/8/20)「みんなで学ぶ防災教室」(2024/3/17)です。倉吉北高等学校インターアクトクラブから倉吉市社会福祉協議会へ「高校生が地域のためにできる活動はないだろうか」と相談があったことをきっかけに、「ゲームを使って高校生が防災を伝えるのはどうだろう」「調理クラブにも声をかけて防災クッキングもやってみよう」とアイデアが湧いて、打ち合わせや練習会を重ねて皆で企画していきました。両日とも、市内の親子を中心に幅広い方々に参加いただき、高校生がファシリテーターとなってゲームやクッキングを体験。楽しみながら防災について学び・交流を深めることができました。大人が子どもや若者に伝えることも大事ですが、高校生が伝える側に立つことで、自ら学び・伝える力を育むことにもつながりました。「安心して暮らすことができるまち」を目指して、これからも皆で取り組んでいきたいです。

